

イエスが悪霊を追い出したのを見た人々は大変驚いて、「この人はダビデの子、約束されている救い主ではないだろうか」、と思いました。原文の直訳は、はっきりと否定の答えを期待する疑問文で、「まさかこの者がダビデの子なのではないだろうね」です。この福音書において、イエスがダビデの子と呼びかけられる時、殆どの箇所は病人を癒す奇跡の場面です。著者によれば、イエスは病気に苦しむ人々に憐れみを実践して救うメシアなのです。しかし、ファリサイ派の人々はこの奇跡をイエスが悪霊の頭ベルゼブルだからだと言ったのです。同じ、悪霊追放の奇跡を見ても全く正反対の見方が生じているのです。ファリサイ派の人々のこのような思いに対して、イエスは「サタンがサタンを追い出せば、それは内輪もめだ」と言いました。当時、ファリサイ派の人々の中にも悪霊を追い出して病気を癒す業をしていた人がおり、それは神さまの力によるのだとしていました。イエスは「我々がベルゼブルに頼んで子分の悪霊を追い出してもらっているのではないことを彼ら自身がよく知っているはずだ」と言いました。そして、28 節、直訳すれば、「しかし、私が神の霊で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに既に来たのだ」となります。イエスは現在眼の前で病気が癒された、それがどんなにすばらしいことか、これが神の国というものだろう、神の国はあなたたちのところに既に来たのだ、と言っているのです。

著者は、30 節でイエスの中に神さまの支配が既に来ている以上、イエスに対する中立的な立場はありえない、全面的に従うか敵対するかのどちらかであると著者の信仰共同体の人たちに迫っています。31 節の「人が犯す罪や冒瀆は、どんなものでも赦される」は、原文の直訳では「人間に対してはいかなる罪も冒瀆も赦される」です。元々は 9:2 の「あなたの罪は赦される」、人にはすべての罪は赦されているというイエスの言葉であり、これは罪人とともに生きたイエスの生きざまをよく表している言葉です。並行箇所であるマコ 3:28～29 に記されている罪を犯し赦される側の「人の子」、人一般が、32 節ではイエスに対する称号として用いられ、地上のイエスに対する言い逆らいと聖霊に対する言い逆らいを区別されています。そうすることで、現在著者の信仰共同体が宣べ伝えている福音に対するユダヤ教側の反抗を厳しく断罪しているのです。地上のイエスに逆らって死に至らせたことは赦される。しかし、聖霊によって復活させられたイエスに逆らうことは赦されないという宣言なのです。それはまた、今宣べ伝えている復活させられたキリストを信じ受け入れるようにという呼びかけでもあるのです。イエスは「神の国はあなたたちのところに既に来たのだ」と言いました。このイエスの言葉を信頼し、イエスと共に歩んでいきたいと思えます。